

基調講演



蓮見 孝 (札幌市立大学理事長・学長・教授)

1948年神奈川県生まれ、東京教育大学卒。博士(デザイン学)。1971年日産自動車(株)入社、モデル課長、エクステリアデザイン室代表主担等歴任、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート社命留学。1991年筑波大学に転籍、芸術系教授。芸術専門学群副学群長、広報戦略室長、学長補佐等歴任。2012年から札幌市立大学学長。著書に「ポスト「熱い社会」をめざすユニバーサルデザイン - モノ・コト・まちづくり」(工業調査会/2004)「地域再生プロデュース - 参画型デザインングの実践と効果」(文眞堂/2008)など。多くの実践的な地域振興プロジェクトを牽引している。



池尻 隆史(近畿大学建築学部建築学科講師)

1976年生まれ。千葉大学建築学科を経て、2005年千葉大学大学院自然科学研究科にて博士(工学)。東京理科大学助教、千葉大学助教を経て、現在は近畿大学建築学科講師。インド、ムンバイをフィールドとし、ショールと呼ばれる現地の集合住宅を現地研究し、現地住民のコミュニティの形成過程などの実態を多くの論文にまとめている。建築、都市計画系フィールドワークの専門家。

話題提供



井田 憲政(株式会社フレンドシップ アドベンチャーズ代表取締役)

高校卒業後は幼少からの憧れであった俳優になる為、俳優学校に入学するが、数回の舞台後に断念し俳優学校時代から興味があった「外国人と世界を旅する」というアドベンチャーツアーに参加する為、アメリカへ逃亡。初めて会った外国人と様々なアウトドアツアーを体験し、テントに泊まり寝食を共にする。という日本では聞いた事がない内容に感激し、ツアーを引率するツアーリーダーに憧れ、ツアー参加中にこの業種で働く事を決意。帰国後、国内にて同業種を調べ就職先を探したが、日本には存在せず、自分で株式会社フレンドシップアドベンチャーズを立ち上げる。同社が提供するウォーターチュービング、スノースピード、ラップジャンピングなどが在関西のテレビに100本以上取り上げられている。本人も世界中のツアーに参加し生死の境を数々経験している川の専門家。



田中 謙次(環境文化研究所 CRO)

福井県越前市生まれ。福井高专土木工学科卒業。10年以上前から子どもたちに身近な自然を楽しむ心に気づいてもらうため、自然体験を通じた環境教育をスタート。現在は、自然体験とツーリズムで、本気×やる気×元氣=人気あふれる流域を目指して楽しく活動展開中。川に学ぶ体験活動協議会トレーナー、自然体験活動推進協議会トレーナー、エコツーリズム地域コーディネーター、プロジェクト WET ファシリテーター、RESCUE 3 SRT-1、技術士(建設部門、農業部門)、ピオトープ管理士他。



西尾 浩一(福井工業大学デザイン学科准教授)

岐阜県中津川市出身。筑波大学第三学群基礎工学類を卒業後、筑波大学人間総合科学研究科芸術学専攻、2006年、博士課程、単位取得満期退学。2007年、博士(デザイン学)筑波大学。2009年より、福井工業大学デザイン学科講師、2012年より准教授。プロダクトデザインを専門とし、独自の発想から、奇想天外な機器の開発を企画する。アートとデザイン、モノづくりとコトづくり両面からフィールドワークに取り組む。最近のニュースでは、西尾研究室「課長畑豊作チーム」開発の農業支援ロボットが福井県学生交流事業学生グランプリ賞を受賞した。

総合司会



谷 俵太(クリエイティブディレクター)

関西大学在学中、朝日放送が制作する若者向けの深夜番組企画のブレーンに起用され、企画会議にて一般人を巻き込む手法を提案、全員意味がわからず本人が実際に出演し実演する事になる。これが大ヒットした。以後その時に適当につけた名前「越前屋俵太」がブランド化しテレビメディアで活躍する。クリエイティブディレクターとしては、「探偵ナイトスクープ」を始めとして、自身が企画、構成、演出、制作した作品が日本民間放送連盟娯楽部門最優秀賞を2度に渡り受賞、カンヌ国際広告祭公共広告部門では日本人初となる金賞を受賞するなど、数々の賞に輝いている。現在、関西大学、仁愛大学において非常勤講師をつとめる。福井では、自らが福井テレビに持ち込んだ企画「俵太の達者でござる」が大ヒット、お奉行様として10年間に渡り福井県下を見廻りした。